

脳の意外な症状

脳の病気に伴って出現する症状、その中でも意外に思われる症状についてご説明致します。そして、どのような症状があれば脳神経外科を受診しなければならないのかということをご正確に理解して頂きたいと思っております。脳の症状は様々で、脳からの症状であっても最初は脳神経外科の病気だとは思われず、他の科を受診されることも多々あります。例えば、うつ気味や性格変化で精神科へ、目が見えにくくなり眼科へ、耳鳴り、難聴があり耳鼻科へ、下顎部が痛く虫歯と思い歯科へ、生理がなくなり不妊などで婦人科へなどです。これらの症状の中には脳の病気が原因のことがあるのですが、最初は脳神経に病気があるとは気づかれないこともしばしばあります。他の臓器の神経支配をもしている脳は、その障害された部位の支配器官に特徴的な症状も出します。今回は、誰もが脳神経外科受診をまず考える意識障害、てんかんや頭痛の大部分は割愛致します。

(1) 頭痛

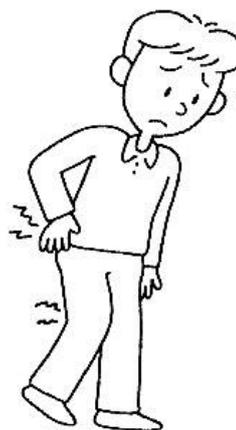
手足の麻痺など他の症状を伴わない頭痛の大半は心配いらぬ「頭痛持ちの頭痛」です。偏頭痛、筋緊張性頭痛や後頭神経痛と呼ばれる頭蓋骨の外の血管、筋肉や神経の痛みです。しかし時に命に関わる恐ろしい頭痛もありますので頭痛はやっかいで、それらとの区別が大切です。命に関わる危ない頭痛の一番は、脳動脈瘤(血管のたんこぶ)が破裂して起こすくも膜下出血です。今まで経験したことがない頭痛が突然おこった時は、必ず専門医を受診して下さい。



(2) 手足の麻痺、歩行障害、一過性脱力発作

手足がほぼ完全に麻痺し動かせなくなれば、脳がやられたのではとどなたでも思われると思います。しかし、このようになる前に前兆があることも多く、前兆の段階で治療を受けると手足の麻痺を回避できたり、重篤になるはずのところを軽症ですませることが出来ます。前兆の代表は一過性脱力発作です。これは、数十秒から数分間手足に力がはいらないけれどもまた元に戻るような状態で、脳血管が狭くなり脳血流が不足していますとの知らせです。足の力が抜けると歩行困難を感じますし、スリッパがぬけやすくなります。手の力が抜けると箸などを手から落とすようになります。ましてや右手足の麻痺に言語障害と一緒に

あれば、左の大腦半球になにか起こっています。子供に多いもやもや病は泣いたときおこる一瞬の手足の麻痺をみつけ早期治療することが重要な脳の血管の病気ですが、子供が一過性脱力発作を起こしても周囲の大人には何が起こったのか判らず診断がしばしば遅れます。一過性脱力発作は脳梗塞の重要な前ぶれですので、急いで脳神経外科を受診して下さい。



(3) 言語障害

物が言えない程のひどい言語障害はすぐ気づかれますが、口がまめりにくい、物の名前が出てこない等の軽い障害は見過ごされがちです。歳を取ると、人の名前がしばしば出てこないことは当然老化現象としてありますが、「時計」「ペン」などの物の簡単な名前が出てこなかったり、右、左を間違えたり、簡単な計算(100-7=93)などが出来なくなれば、脳の言語中枢が病的に障害されたことを疑わなければなりません。



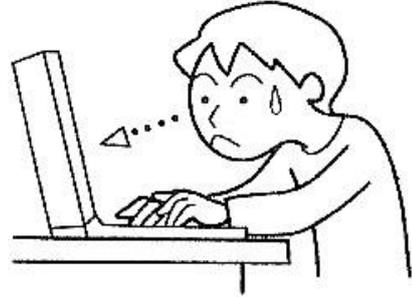
(4) めまい、ふらつき

色々な病気、例えば貧血でもめまい、ふらつきが来ますが、小さな脳梗塞や小脳の病気もめまい、ふらつきで発症しますので、検査で区別する必要があります。



(5) 目の症状(視力低下、視野障害、複視、眼瞼下垂など)

脳からは 12 本の脳神経が出ており、臭いをかいたり、眼や舌を動かしたりしています。2 番目の脳神経が物を見る視神経です。見ることは、目をとおして行っていますが脳で見ていると言っても過言ではありません。眼球で捉えた影像を視神経を通し大脳半球で見ているのです。それで、物が見えにくいなどの眼科的



的の症状も時に脳の障害で生じます。物が見えにくい内容には、視力の低下や見える範囲、視野の障害や物が二つに見える複視があります。片側の視神経が腫瘍などで障害されれば視力低下が来ますし、目の機能に關与する部位の大脳半球がやられると視野が一部欠けます。例えば、右の視野が障害されると右から来る自動車や自転車が見にくいと感じます。また、物が二つに見える複視は、左右眼球の運動を司っている脳神経の障害で生じます。視力は問題がないのに片側の瞼が下がって見づらいこともあり、この時はまぶたを動かす神経が脳動脈瘤(血管のたんこぶ)で圧迫されていることを疑う必要があります。しかもこれはたんこぶが大きくなり破れる前ぶれなので、出来るだけ早く脳神経外医に診てもらって下さい。

(6) 顔面の症状(顔の痛み、麻痺や痙攣ピクツキ)

顔の感覚を支配しているのは三叉神経で、運動を司るのが顔面神経です。三叉神経がやられますと、顔が痛んだり、顔の感じがおかしくなります。顔が歪む、顔面麻痺であれば脳神経外科を受診されると思いますが、顔の痛みの方は脳からだとは通常思われません。例えば歯肉や顎の部分だと虫歯と思ひ歯科を受診し抜歯を受けても治らず、そこで三叉神経の病気だと悟られることがしばしばです。また、顔の麻痺ではなく目の周りや口の周りが片側だけピクピクする片側顔面痙攣という病気があります。これは動脈硬化を起こした血管が顔面神経を圧迫して顔面の筋肉を過度に動かす病気で、最初目の周囲から始まりますので眼科を受診される方も多いと思います。この症状も徐々に進行し顔面全体へ及びますので、脳神経外科を受診下さい。



(7) 耳の症状(耳鳴り、難聴)

耳鳴り、難聴も稀に脳の病気で生じます。代表的なのは、聴神経に発生する聴神経腫瘍です。この腫瘍が小さいと、脳の検査、MRI 検査をしないとみつきりません。耳鳴り、難聴の大多数は老化など別の原因ですが、一度は MRI 検査で腫瘍がないことを確認されることをお勧め致します。



(8) 内分泌障害による症状(無月経、不妊)

脳の病気でも月経がなくなることがあります。これは、脳下垂体という場所で脳がホルモン分泌の支配をしているからです。不妊などで悩まれる方の中に、脳下垂体にホルモンを作る良性の腫瘍があり、そのため無月経になっている場合があります。現在では、ホルモンをコントロール出来る良い薬もあり妊娠が可能となる場合も多々あります。



以上、脳神経の病気でおこる意外と思われる症状を述べました。上記のような症状が出た場合、脳神経外科を受診し適切な検査を受けられることをお勧め致します。